

森林による防災・減災の 可能性をさぐる

Exploring the potential of forest-based disaster risk reductions (F-DRR)

基調講演

浅野（中静） 透

国立研究開発法人森林研究・整備機構 理事長

▶ オンラインセミナー（会場併用）

▶ 日比谷国際ビルコンファレンススクエア
（東京メトロ霞ヶ関駅、都営地下鉄内幸町駅 地下直結）
先着30名まで会場参加可能
参加無料・日本語英語同時通訳

▶ 参加申込
(<https://forms.gle/7ks2btJDM3xH8uoT8>)
(1月22日×切)



▶ プログラム詳細
(<http://redd.ffpri.affrc.go.jp>)



2021
2021
1/27
3:00 PM -
5:30 PM

▶ お問い合わせ：国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
REDDプラス・海外森林防災研究開発センター 国際セミナー運営事務局
国際緑化推進センター（担当：佐野・倉本）
TEL: 03-5689-3450 E-mail: red-plus@jifpro.or.jp

▶ 主催：国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

森林による防災・減災の可能性をさぐる

Exploring the potential of forest-based disaster risk reductions (F-DRR)

開催趣旨

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書では、気温、海水温、海水面水位、雪氷減少などの観測から気候システムの温暖化には疑う余地はないことが指摘されています。気候変動枠組条約の下、パリ協定の2条においては、気温の上昇を2℃以下に抑える目標と並列して、変動する気候に適応する能力を増強することが掲げられています。昨今、気候変動の進行、多発する森林や農地への森林火災を伴う土地利用変化、世界各地での激甚気象現象による土砂災害等の被害の増加などが多発し、森林による防災・減災（F-DRR）は、ローカルの自然・生態系の特徴を生かし、持続的なレジリエンスの強化を導く気候変動適応・緩和の双方に資する自然に基づく解決策として期待されています。これに資する日本の国土強靱化に関する知見の途上国への適用や課題の調査、海外展開に向けた技術開発・人材育成が求められているところです。

森林総合研究所では、2020年にREDDプラス・海外森林防災研究開発センターを立ち上げ、開発途上国における森林による緩和・適応両面の気候変動対策に関する研究開発を開始しました。

本セミナーは、「森林による防災・減災の可能性をさぐる」ことを目的とし、F-DRRの戦略・実践の国際的動向について情報提供すると共に、具体的な政策的・技術的取り組みと課題について各国から報告します。

さらに、「森林による防災・減災の可能性」を主題としたパネルディスカッションを行い、F-DRRに対するニーズと課題を共有し、今後どのように取り組んでいくべきか、方向性と可能性について議論します。

基調講演者

浅野（中静） 透

1985年に林野庁入庁。京都大学生態学研究センター教授、東北大学学術資源研究公開センター植物園長等を経て、国立研究開発法人森林研究・整備機構理事長。専門は植物生態学。熱帯林や温帯林における森林の動き、樹木の生活史、生物多様性が維持されるしくみなどを研究している。



プログラム概要

基調講演	浅野（中静）透（森林総合研究所）
セッション1: F-DRRの戦略・実践の国際的動向	水野 理（地球環境戦略研究機関(IGES)） トーマス・ホファー（国連食糧農業機関(FAO)） マンズル・クマル・ハザリカ（アジア工科大学(AIT)）
セッション2: 各国の政策的・技術的取り組みと課題	フー・タン・フォン（ベトナム森林科学アカデミー(VAFS)） シ・トゥ・アウン（ミャンマー森林局） 岡本 隆（森林総合研究所）
パネルディスカッション: F-DRRのポテンシャル -ニーズと課題-	基調講演者、セッション登壇者が参加